# ダストチャンバの設工認申請について

#### 1. 概要

当社転換工場の化学処理施設においてロータリーキルンの排気ライン上にあるダストチャンバの更新を予定している(2024年7月頃の予定)。当該設備は2系列あり、既設工認(6次申請)でそれぞれダストチャンバ(1)及び(2)として申請しているが、今回、老朽化対策として(1)、(2)共に本体部全体を更新する。このうちダストチャンバ(2)については、既設工認と寸法仕様を変更することから、設工認申請の要否を検討している。

#### 2. ダストチャンバ更新の概要

今回、更新を予定しているダストチャンバの概要を添付の図イ設-38(1/2)、(2/2)に示す	٥.
ダストチャンバ(1)については、同一仕様品との交換であるが、ダストチャンバ(2)につい	っては、
ダストチャンバ(1)と同じ形状、位置に変更する。これにより、現行、焙焼還元設備共通架台	iの
直下にある上部フランジ部がダストチャンバ(1)と同様に	よりも
上部に出るため、設備のメンテナンス性が向上する。(内部フィルタの交換時等では上部フ	ランジ
部を開閉するため。)	

## 3. 行政相談事項

## ① 設備の設工認申請について

今回、ダストチャンバ(2)をダストチャンバ(1)と同仕様に変更することにより、既設工認の以下の箇所が変更となる。(6次設工認(仕様表は7次)における変更箇所を添付に示す。)

- ・仕様表、機器図における外寸
- ・材料一覧における部材変更 (ダストチャンバ架台(2)の削除)
- ・ユニット寸法図における座標及び寸法

上記変更に伴う技術基準への適合に関する記載への影響を表1に示す。この結果から今回の仕様変更に関しては、臨界及び地震損傷への評価が必要であり、技術基準への適合に関する記載への影響がある。しかしながら、既に認可済みであるダストチャンバ(1)と同じ設計に変更する工事であることから各評価項目は同じ評価結果になり、問題ない範囲であることの説明となる。

また、ダストチャンバ(2)の仕様変更及び工事による関連設備への影響を評価した結果を表 2 に示す。評価対象は隣接又は同一排気ライン系統の設備(図イ系-6 参照)とした。この結果より、いずれの設備も既認可で評価した結果に変更を生じるものはなく、関連設備で設工認申請が必要なものはないと考えている。

以上の場合、ダストチャンバ(2)の仕様変更は、原子炉等規制法第 16 条の 2 第 1 項に規定する 設工認を要する工事に該当するのか確認させていただきたい。

# ② 建物の設工認申請について

今回のダストチャンバ(2)の形状変更では荷重が増える方向となるため、ダストチャンバを設置する ADU 設備共通架台、これらの設備を設置する建物の耐震計算等への影響が考えられるが、既認可(4次申請、6次申請)の添付説明書(加工施設の耐震性に関する説明書)で示している耐震計算書においては荷重に十分に余裕を持たせた評価としているため、ダストチャンバ(2)の形状変更で積載荷重が変更になったとしても共通架台や建物の検定比はかわらず、耐震計算書上変更となる箇所はない。よって、共通架台、建物(転換工場)の設工認申請は不要と考えているがこの認識で問題ないか確認させていただきたい。なお、事業者としては、本方針については今後の設工認申請においても基本的には同じ考え方としたい。(例として今後、組立工場に設備の新規導入を検討しているが、申請対象は導入する設備についてのみ設工認申請を行うものとし、それを設置する建物については、導入する設備の影響で建物に追加補強等が必要とならない限りは設工認申請しない方針とする。)

以上

表1 ダストチャンパ(2)の仕様変更に伴う技術基準への適合に関する記載への影響

資料項目	加工施設の技術基準	項目	技術基準への適合に 関する記載への影響	技術基準への適合状況見通し
臨界防止	第四条第1項	単一ユニット	なし	既設工認の記載事項から変更はない。 (直径は変更しないため核的制限値の変更はない)
				ユニット寸法及び座標が変更となるため立体角及びユニット間の
	第四条第 2 項	複数ユニット	あり	必要離隔距離について再評価が必要。但し、ダストチャンパ(1)と
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		200	同寸法とすることから各評価結果も同じ評価結果となり、問題な い範囲であることの確認となる。
	第四条第3項	臨界蓋報設備(5%超)	MINE PARK THE	The state of the s
地盤	第五条	地盤	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
地震損傷	第六条第1項	耐震重要度分類	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
				耐震重要度分類第1類の設備であり、今回、外寸及び荷重が変更
		地震力	あり	となることから耐震評価が必要。但し、ダストチャンパ(1)と同位
				様とすることから各評価結果も同じ評価結果となり、問題ない範
	第六条第2項	耐震重要施設		囲であることの確認となる。
	第六条第3項	耐震重要施設		
津波損傷	第七条	津波	85	-
外部衝擊損傷	第八条第1項	竜巻・風(台風)		-
		洪水	-	:-
		凍結	(4	-
		降水・風(台風)	2=	<u>-</u>
		積雪		(a) (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c
		落雷	72	
		地滑り		3 <del>8</del>
		火山の影響	127 127	7 T 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
		生物学的事象		
		森林火災	N	-
	第八条第2項	航空機落下に伴う火災	-	-
		敷地内危険物の火災・爆発、	200	
		近隣工場の火災・爆発、有毒	-	
		ガス	-	
		ダムの崩壊 船舶の衝突		
		電磁的障害		
	第八条第3項	航空機落下	744	76
不法侵入	第九条	不法侵入、不正アクセス	-	· · ·
閉じ込め	第十条	閉じ込め	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
火災損傷	第十一条第1項	消火設備及び警報設備	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
	第十一条第2項	消火設備及び警報設備(安重施 設)		
		1000		Manufacture State Control of the State Control of Contr
				材料はダストチャンパ(1)と同仕様とすることから火災に影響する
	第十一条第3項	不燃性又は難燃性、防火壁	なし	ような材料の変更はない。なお、ダストチャンバ(2)架台を撤去す
				るので架台の材料は撤去扱いとなる。
	第十一条第 4 項	水素接地	-	(m)
	第十一条第5項	水素滞留	77.	
	第十一条第6項	熱的制限值	100	( <del>a</del>
	第十一条第7項	爆発防止	-	
溢水損傷	第十二条	溢水	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
安全避難通路	第十三条	安全避難通路	なし	既設工認の記載事項から変更はない。
安全機能	第十四条第1項	環境条件	72	75
	第十四条第2項	検査又は試験	2.4	2#
	第十四条第3項	内部飛来物	-	
Later Care	第十四条第4項	共用施設	977	
材料・構造	第十五条第1項	強度及び耐食性	-	-
AN 134 STI. No.	第十五条第2項	耐圧試験、漏えい試験	-	-
般送設備	第十六条	搬送設備	-	-
貯蔵施設	第十七条	貯蔵施設(崩壊熱)	1.5	
警報設備	第十八条第1項	警報設備		12
	第十八条第 2 項	インターロック		/ <del>+</del>
放管施設	第十九条	放射線管理施設		_

表1 ダストチャンパ(2)の仕様変更に伴う技術基準への適合に関する記載への影響

資料項目	加工施設の技術基準	項目	技術基準への適合に 関する記載への影響	技術基準への適合状況見通し
汚染防止	第二十一条	汚染防止	7/2	<u> </u>
遮蔽	第二十二条第1項	直接線、スカイシャイン線	The second	3#
	第二十二条第2項	遮蔽設備	N#	\$E
換気設備	第二十三条	換気	0.00	5 MM 5 7 75
非常用電源	第二十四条第1項	非常用ディーゼル発電機	N <u>2</u>	- Gar
	第二十四条第2項	無停電電源装置		5 <del>4</del>
通信連絡設備	第二十五条第1項	通信連絡設備	in the second	38
	第二十五条第2項	外部への通信連絡	S <del>7</del> 2	<del></del>

本加工施設では該当しない項目

表2 ダストチャンバ(2)の仕様変更による関連設備への影響評価結果

711	典	弘/ 是亦 面 左 無	影響の考えられる	10 年 年	<b>家工</b> >
X	MH.	以開及火伊洪	技術基準項目	m m	海
[94]排気配管		あり	地震損傷	ダストチャンバに接続している排気配管は、入口側	大選
		(配管長さ、サポート		出口側共にロータリーキルンの付属配管である。(図	
		追設)		イ系-6 参照)	
				今回、ダストチャンバ本体部が上方に移動すること	
				により、配管取り合い位置が変更となるため入口側	
				配管、出口側配管長を調整する。	
				この際、使用する配管は既設と材料、口径も同一と	
				し、また使用温度も考慮して適切に支持することで	
				技術基準項目を満足する。	
				なお、配管の地震損傷に対する考慮については、適	
				切に支持するという方針のみを設工認申請書の仕様	
				表で示す方針としていることから、配管の形状変更	
				についての設工認申請は不要と考えている。	
				(取り合い位置や配管形状などについては既認可の設	
				工認申請書でも示しておらず、これを踏襲したい。)	
			火災損傷	配管材料は変更しないため、既認可の評価結果に変	不要
				更は生じない。	
[94]ロータリーキルン	キルン	なし	臨界防止	今回、ダストチャンバ(2)を仕様変更しても排気風	不要
[94]余剰水素燃焼機構	焼機構		閉じ込め	量、集塵量には変更がないため、周辺設備のウラン	
(燃焼チャンバ)	0			量の増加等の影響は無く、既認可の評価結果に変更	
{101}水封ポット				は生じない。	
[626]スクラバ					
気体廃棄設備(1)	(				

追表イ設-38(6次) ダストチャンバ 仕様表 (1/2)

所容	許可番号(日付)設備・機器名称	(88) 焙焼運元設備 ダストチャンパ (1) 工場棟 転換工場 転換加工室 (2) 工場棟 転換工場 転換加工室 焙焼運元設備 ダストチャンパ (1) ダストチャンパ(1) (2) ダストチャンパ(2) (1) 変更なし					
		(2) 工場棟 転換工場 転換加工室 焙焼運元設備 ダストチャンパ (1) ダストチャンパ(1) (2) ダストチャンパ(2)					
		始焼運元設備 ダストチャンパ (1) ダストチャンパ(1) (2) ダストチャンパ(2)					
		(1) ダストチャンパ(1) (2) ダストチャンパ(2)					
容		(2) ダストチャンバ(2)					
容		- International Control of the Control of Co					
容		(1) 変更なし					
		(2) 変更なし   ⇒ 改 浩					
		2基					
		(1) 1 基					
		(2) 1基					
型式		円筒縦型					
主要な構造	造材	別表イ設-38【三原燃第 20-0895 号】					
寸法 (単	文:mm)	(1) (2)   ⇒ダストチャンバ(1)と同じ値に変す					
その他の	<b>养成機器</b>						
その他の作	生能	最高使用温度:300℃					
取扱う核体	然料物質の状態	ADU 粉末、U2O2粉末、UO2粉末					
核燃料物質	質の臨界防止	(95)					
		[4.1-段 1] 核的制限値を設定する。					
		濃縮度 5%以下					
		直 径 25.1cm以下					
		[4.2-設1] ウランの使用は、その形状寸法及び位置について立体角法により安全で					
あることが確認された配置に固定する。							
		(図臨配-2、図臨転-31)					
		[4.2-設8]工場棟領域に設置する。					
		第2核燃料倉庫領域のユニットより必要離隔距離以上離れた位置に配置する。					
	を有する施設の地盤	[5.1-設1] 十分な支持性能を有する基礎及び地盤上に建造された工場棟転換工場の					
-	その他の付取扱う核対	その他の構成機器 その他の性能 数扱う核燃料物質の状態 核燃料物質の臨界防止 安全機能を有する施設の地盤					

| は既設工認から変更する箇所

#### [8.1-設1] 耐質重要度に応じ分類する。 地震による損傷の防止 [8.1-設2] 地震力に耐える強度を有する部材を使用し、ポルトで固定する。 {85} ダストチャンパ(1) 第1類 部材 に基づく設計 取付ポルト ٦г {95}ダストチャンバ(2) 第1類 ダストチャンパ(2)部材: ダストチャンパ(2)取付ポルト ダストチャンパ(2)架台部材: **」**⇒変更 往 →削除 ダストチャンバ(2)架台取付ポルト: 津波による損傷の防止 外部からの衝撃による損傷の防止 人の不法な侵入等の防止 [10.1-設1] 機器本体部は開口部のない構造とする。 閉じ込めの機能 [10.1-設 4] 排気は局所排気系統に接続する。 火災等による損傷の防止 [11.3-設2] 主要な構造材には不燃性材料を使用する。 溢水による損傷の防止 [12.1-設 1] 水の浸入を想定した形状寸法を設定する。 [12.1-設 3] ウランの存在部位を溢水水位(180mm)より高くする。 [12.1-設7] 被水又は没水による電気火災防止のため、配線用遮断器を設置する 安全避難通路等 安全機能を有する施設 [14.1-設 1] 設置場所の通常時及び設計基準事故発生時に想定される温湿度状態、圧 力及び放射線環境下において、必要な安全機能(臨界、閉じ込め、遮蔽等)を発揮で きる設計とする。 [14.2-設 1] 検査又は試験及び保守又は修理ができ、作業者の立入が容易な場所に設 置する。 材料及び構造 搬送設備 核燃料物質の貯蔵施設 警報設備等 放射線管理施設 廃棄施設 核燃料物質等による汚染の防止 遮蔽 換気設備 非常用電源設備 通信連絡設備 その他事業許可で求める仕様 [99-設1] Sクラスに属する施設に求められる地震力(1G程度)に対して十分な強度 を有するよう、第1類の設備・機器に対しては水平地震力が1.0Gで弾性範囲となる 設計とする。 [99-設3] F3 竜巻による建物の屋根損傷を考慮し、F3 竜巻に耐えるようボルトで固 定する。 | 図イ系-8、図イ教-98【三原燃第 20-0895 号】 加工施設の技術基準に関する規則第三章 電大事故等対処施設 第 28条~第 39条は該当しない。 { 内に示す数字:事実許可の「表 安全機能を有する施設の安全機能・覧」における該当機器の番号を示す。 [ ] 内に示す数字:加工施設の技術基準の条番号、項番号、及び設計番号、又はその他事業許可で求める仕様に関する設計番号を示す。 (例) [4.1-設 1]は、加工施設の技術基準第 4条第 1項に対する設計番号 設 1 を示す。 [ [ 19-設 1]は、元 200年業許可で求める仕様に関する設計番号 設 1 を示す。 添付図

追表イ設-38(6次) ダストチャンバ 仕様表 (2/2)

凡例

本申請の対象に下線を付し示す。その他の事項については原規規発第 2102254 号で認可済み。

は既設工認から変更する箇所

別表イ設-38 ダストチャンバ 材料一覧

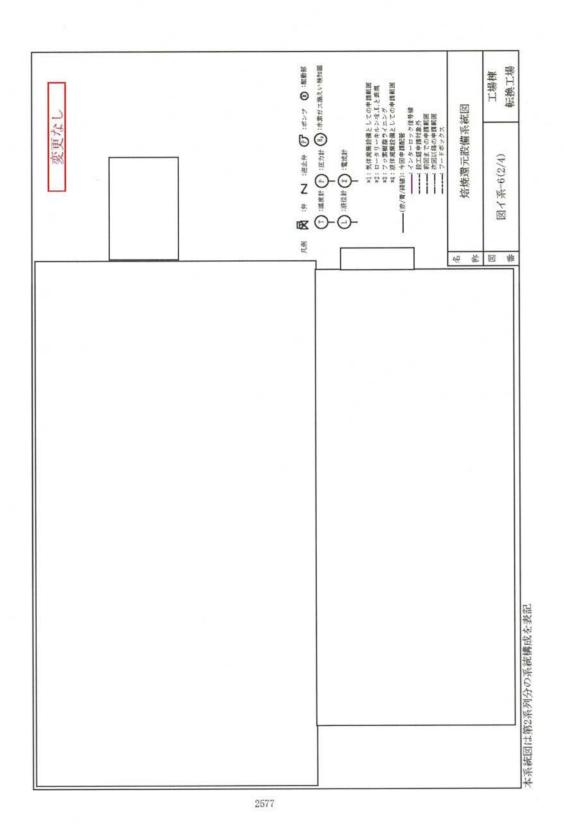
機器名	部位	部位名	材料
ダストチャンバ(1)	主要な構造材	柱(ダストチャンバ(1))	⇒(1),(2)に変更
ダストチャンバ(2)		柱(ダストチャンバ架台(2)) はり(ダストチャンバ架台(2))	⇒削除
	ウランを取り扱う部 位	ダストチャンバ	
	その他	取付ボルト(ダストチャンバ(1))	⇒(1),(2)に変更
		取付ボルト(ダストチャンバ(2))	⇒削除
		取付ボルト(ダストチャンバ(2)架 台)	⇒削除

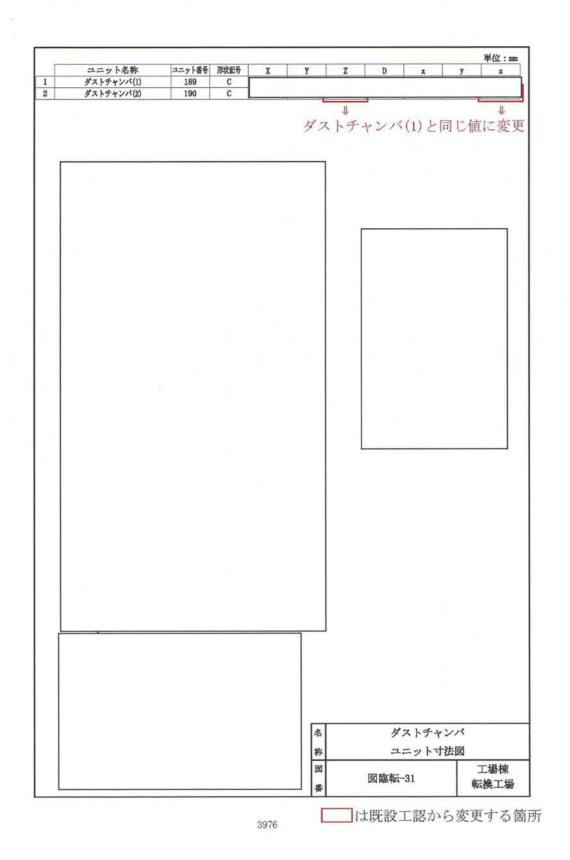
事業許可との対応: {95}

は既設工認から変更する箇所

			No. 安全機能を有する施設名類 {95} ダストチャンパ	3
			内は、耐震計算書の部位名称	を示す
	ダフ	ストチャンバ()	1)は単純更新	
			*1:形状寸法制限(直径251mm以*2:溢水水位(床面より160mm)	
			*3:排気に含まれるウランの除去: ウランが滞留する部分	単位:=
			名 焙焼選元設備 称 ダストチャンバ(1)(2)	
				工場棟  議換工場

		一内は、	耐震計算書の	部位名称を示す
	*1	· 形状寸	法制限(直径	251mmC/下)
	*2 *3	: 溢水水 : 排気に	位(床面より) 含まれるウラ が滞留する部	160mm) ンの除去 分
	名称		焙焼還元 ダストチャン	
	図番	図イ	設一38(2/2)	工場棟転換工場





+Y 側ユニット表面 ユニット上端 Y 座標(※1※2) Z 座標(※1※3) ユニット 2 寸法 (490[cm]以上)(※4) ユニット『寸法 ユニット名称 UQFz 貯槽(1)-1 本体部 UQ.F. 貯槽(2)-A 本体部 UQ.F. 貯槽(1)-B U.G.F. 貯槽 (2) -B U.G.F. 貯槽 (1) -C U.G.F. 貯槽 (2) -C 熱交換器 (U.G.F. 貯槽) (2) 118 120 114-02 114-02 熱交接器 (Uc.F: 貯槽) (2)
113 液受槽 (1) 本体部
114 液受槽 (2) 本体部
123 調液貯槽 (3) - 本体部
124 調液貯槽 (3) - B 本体部
125 調液貯槽 (1) - B 本体部
125 調液貯槽 (1) - B 本体部
126 調液貯槽 (2) - B 本体部
127 沈設槽 (1) - B 本体部
128 沈設槽 (2) - B 本体部
129 沈設槽 (2) - B 本体部
130 沈設槽 (2) - B 本体部
819-01 沈設槽 (1) - B 沈設槽連通管
819-02 沈設槽 (2) - B 次設槽連通管
820-02 沈設槽 (2) - B 沈設槽連通管
820-02 沈設槽 (3) - B 沈設槽連通管
820-02 沈設槽 (3) - B 沈設槽連通管
820-02 沈設槽連通管 184 ADD 受けホッパ(2) ADD バダフィルタ(1) ADD バダフィルタ(2) リサイクル粉漿透装置(2) リサイクル粉漿けホッパ(2) リサイクル粉受けホッパ(2) リサイクル粉でけホッパ(1) ダストチャンバ(2) UGプロータンク(1) サイクロン部 UGプロータンク(2) サイクロン部 UGフィルタ(1) UQ受けホッパ(2) 粉砕機(1) バグフィルタ部 粉砕機(2) バグフィルタ部 粉末輸送装置①ホッパ部① の木塚地会画(Uボッバ部(I) バグフィルタ(粉末輸送装置(I)) スラグコンペア バックアップフィルタ(粉末集盛装置) 遠粒機 

添説設 1-5-1表 対象となる工場棟領域ユニット

は既設工認から変更する箇所

添説散1-5-4表 計算結果と判定

ユニット	ユニット名称	必要離隔距離 PD[cm]	ユニット間距離 DAB[cm]	判定 (PD≤DAB)
垂写 15	UQ.Fz 貯槽(1)-A 本体部	10[01]	Pant Cal	(FD S DAD)
16	UO <sub>2</sub> F <sub>2</sub> 貯槽(2)-A 本体部	1	1	Ö
17	UO,Fa 貯槽 (1)-B	4	#	0
18	UO-F2 貯槽 (2)-B	1	1	0
19		-	+	0
	UO-F: 貯槽(1)-C	-	₩.	0
20	UO-F: 貯槽(2)-C	-	H	0
14-02	熱交換器 (UO <sub>8</sub> F <sub>2</sub> 貯槽) (2)		H-	
113	液受槽(1) 本体部	-	H-	0
14	液受槽(2) 本体部	4	H-	0
23	間液貯槽(1)-A 本体部	-	H	0
24	調液貯槽(2)-B 本体部	4	₩.	0
25	調液貯槽(1)-B	4	#	0
28	調液貯槽(2)−Δ	-	₩.	0
27	沈殿槽(1)-¼ 本体部	4	4	0
28	沈殿槽(2)-8 本体部	1	1	0
29	沈殿槽(1)-B 本体部	1	1	0
30	沈殿槽(2)-B 本体部			0
319-0I	沈殿槽(1)-1 沈殿槽連通管			0
319-02	沈殿槽(2)-4 沈殿槽連通管		1	0
20-01	沈設槽(1)-8 沈設槽連通管			0
20-02	沈設槽(2)-B 沈設槽連通管			0
131	熟成權(1)-A			0
32	熟成槽(2)-Å	1	T I	0
396	洗浄槽(2)-△	1		0
397	洗浄槽(2)-B	1		0
398	洗浄槽(2)-C	1		0
406	洗浄槽(1)-4	1	1	0
407	洗浄槽(I)-B	1	T T	0
408	洗浄槽(1)-℃	1	1	0
187	再生液贮槽(1)-A 本体部	1	The state of the s	0
188	再生液贮槽(2)-B	1	T T	0
189	再生液疗槽(1)-B	1	The state of the s	0
170	再生液貯槽(2)-C 本体部	- 2	The state of the s	0
171	再生液計構(1)-C 本体部	-1	+	0
173	再生液疗情(1)~ 不详節 再生液疗槽(2)-A 本体部	-	H	Ö
183	再生級町積167~3 平洋部 ADU 受けホッパ(1)	-	1	0
184	ADU 受けホッパ(2)	-	H	0
181	ADU バグフィルタ(1)	-		0
		+	H	0
182	ADU バグフィルタ(2)	-1	+	0
278	リサイクル粉撥送袋置(2)	4	₩.	
275	リサイクル粉鍛送装置(1)	4	1	0
272	リサイクル粉受けホッパ(2)	4	1	0
277	リサイクル粉受けホッパ(1)	4	4	0
189	ダストチャンバ(1)	-		
190	ダストチャンバ(2)	_	1	0
203	UO ブロータンク(1) サイクロン部	4	JL	0
204	UQ ブロータンク(2) サイクロン部	-	1	0
201	UQ-フィルタ(1)	1	1	0
202	UO: フィルタ(2)	_	1	0
205	UO 受けホッパ(1)	_		0
808	UC-受けホッパ(2)	1		0
207-02	粉砕機(1) バグフィルタ部	1		0
208-02	粉砕機(2) バグフィルタ部			0
321	粉末輸送装置①ホッパ部①	1		0
322	バグフィルタ (粉末輸送装置①)	1	T.	0
361-03	スラグコンベア	1	T I	0
864	バックアップフィルタ (粉末集塵妄識)		lt lt	0
361-05	造粒機	1	1	0
361-25	遠粒機 篩分機部	1	H .	0
361-07	遺粒機 オーバーサイズ粉受器部	1	1	0
342	輸送装置	1	ll the	0
341	<b>粉坊架&amp;</b> 伊徳伊	1	H	0
507	仮境炉   スラグコンベア(1)	-	₩	0
509		+	#	0
	スラグコンペア(2)	-1	#	0
516-02	潤滑剤混合機(2) ホッパ部	-1	H	U
	燃料集合体外觀検查台/燃料集合体一時貯蔵		- 1	0

は既設工認から変更する箇所

添説設 3-1-1表 化学処理施設 計算結果 (2/3)

REA	NOS	mesh	別金根底 番号	和教育员 区台语	地景 加速仪	提高 採品款 (H2)	DE	3740 3740 849	#ER	操作する 評価 番幣	多定社	π«
L 4 28-37	ロータリーサルン	ローテリーサルン(1)(2)	34	214	1.8	_		曲げた力度		せん形式力技		金钱
	0.45860.40.00007	ヘッド南フードボックス(D(2)	.96	W155	1.0			增加性均为效		せん既応力度		会林
		テール例フードボックス(1)(2)	31	W1.15	1.0			曲げ応力改		引致力		古格
	1	ロータリーキルン(1)(2)献自	54	81:13	1.0			柳倉せ応力度		引致力	- 東京は	食器
		AOU計画共產效約(3)(2)	-	W118	1.0			総会せ応力		せん概応力度		会格
		意原キャンパ(3)(2)	91	816	1.6		Di	母会世后为		せんぎに力度		- 市場
	1	<b>東原キャンパリ開発</b>	34	811	1.8			梅含せ彩力度		-		食株
	1	既使キャンパ(2)架台	54		1.0		-	利力せら力		+		216
		+H # + F (L)	. 51		1.9		Di	明金せ応力	- 0	相感应为效		素格
		*N=+(1)==	54	W.142	1.8			物会せ応力	. 8	41877	1 1	28
	1	*H = + C)	34		1.0		B	粉金せ応力		相继応力度	1	市格
	1	申刊ペット(2)年度	34		1.0		-	海会せ応力		初致力	1 1	28
							Di I		1 3			
1-13-34	<b>ポストチャン</b> パ	<b>ポストキャンパ(3)</b>		第1億	1.8			曲折忘为医		有補助力核	4 1	食格
		ゼストチャンパ(2)	35		1.0		Pi	1		せん新応力度		自接
	- Contraction	<b>ポストチャンパ(2)放在</b>	15		1.8		2	助会せ応力	. 8	刊集応力技		食糕
E-4 12:-39	ガスモータ	ガスモータ(1)(3)	57	#1ff	1.6		Pi .	現会せ応力	1 3	相数力		食糕
B + 25-40	大型流血管器	大型混合装罐		※1:11	1.0			教会せ応力		引致力	1 1	会核
	1	위로B	923	#1#	- 10		D)	5		せん都応力度	1 1	食物
	1	大型技术需要支導用競台(3)(2)	117	W118	1.1		2	粉食せ応力	1 3	有数次		216
		会高安等支持禁止(1)(2)	117	#1t#	1.0			複食せ応力値	1 1	せん新応力度	1 1	点档
E 4 18-41	サンプラ	サンプラ(1)(2)	115		1.8		Di	-*1		せん概応力度	1 1	北坡
W-180-4	35.63	サンプラ(D(2)実在	111	W148	1.5		2	明会せ応力	1 8	相独力	1 1	28
		7277(D/288					-		1 1			
		サンプラフードボックス(1)(2)	121		3.0			育会せ応力		刊致力	1 1	自務
<b>6.4説/42</b>	バックアップフィルタ(サンプラ)	バックアップフェルタ(サンプラ)*2	113	第1項	1,9		Pi	明金せら九	1 3	引致力		清排
8.4进-84	因料定会裁(金属金额(56水)混出)	<b>信料変力性 (参属管督 (約.米) 混力)</b>	127		0.6		m	場合せ応力		せん新応力度		食味
E 4 28-45	サンプリング自	サンプリング長	177	W2:00	0.6	I		曲げ応力区		引致力	1 1	28
五十號-46	844	斯特権、バグフィルタ及びフードホックス*2	124,125,126		1.0			総合せ応力		引致力		力格
A < 28-47	<b>利利的は実施</b> ②	フードチックス(特点報送製薬型)	129	W1:18	1.0			明古せ応力	- 8	せん既応力度		力技
	10 (10 N/) A N/(10 N/)	※北京は東京の	127		1.0	I	Bi	-*1		せん概応力度	1 1	88
		お土間は東京の本名	127	10.1mg	2.0	ı	1	教会セルカ		引動力	1 1	24
	-						- B	**************************************	- 1	利飲力	4 1	
E + 15-4E	バックアップフィルタ (技術権法製薬(2)	パックアップフィエク(株式輸送装置2)*2	128		1.0	I		和金せだカ体	- 3		4	血板
8 4 25-49	粉末見積サックス	所を元優かっクス	130	第1億	1.0		2	現会せ応力		せん概応力度	4 1	: 18
		<b>販生光費のックス開</b> 数	130		1.0			由扩充力度		引致力		力技
		<b>建</b> 链纸件 基础 6	-	W118	1.0			考含世纪为		利飲力		食福
1 × 10-50	設定技术しポックス	所生装出しボックス*2	131		1.5			場合せ写力度		有政力	1 1	食物
1421-51	連維技術会工程用クレーン	連携改進会工程柄グレーン*2	137		1.8		-	利金セミカ		引致力	1 1	会基
E-418-52	株主株は女妻De y / (製D)		137		1.5		D)	4444		€AMCDE	4 1	214
1 4 20-52	所を検定其業団からいな印	純木製造装置Dホッパ部D					1	1			4 1	
		フードホックス(変数管器)	134	914	1.0			総会せ応力		せん既応力度	4 4	由推
E4限-53	バグフィルタ (技术経過長額立)	バグフィルタ (原生報送製薬①)	135		1.0		RI	場合せ応力性		引揮応力数		食物
1+12-5E	株果田吹きゃ?ス	発き回収チックス	136	第1項	1.5			曲げ応力技		初致力		治特
1.429-55	バックアップフェルタ (株本株法官事団)	バックアップフェルタ (拠点解道装置①) *2	137	816	1.0	ı	Di .	和君を応力		引致力	1 1	食福
5 4 28-56	209回	TORK	130	With	1.8	1	R	1		刊多応力度	1 1	214
E-428-57	於北唐古城	<b>热电影器</b>	1.39	#1:E	2.8			現金せた方体		羽委応力度	1 1	余档
W- W- 21	0.580.6	N. A. 图:	139	21:5	2.8		1	帯査せ応力理		祖教力	1 1	28
						ŀ	-	総合せた力度			4 1	
		フードボックス(除水敷品塊)	148	#1d	1.8					刊休力	4 1	食物
K-128-58	元装官首	見被装置及びフードがックス	141,142	第2億	1.0		PH	場合せ応力		せん制定力度	1 1	素植
数 4 20-55	技术報道装置立中ラバ部位	独生報道英華①キッパ部②	149	<b>816</b>	1.0		THE.	粉索性能力度		羽抓吃力包	1 1	食福
		孫を描述妄葉②ホッパ郡②上型フードホックス	148	第1億	2.8			寿会せ応力度	- 3	せん概応方度	1 1	2.44
	1	<b>株米解述医薬①ホッパ部②下部フードホックス</b>	144	818	1.0		Pi	権会せ応用機	- 3	せん概応力度		力格
		<b>运知於條件 建</b> 聚泉	-	第1億	2.6	1		梅含せ応力	1	有能力	1 1	自持
R - (19-40	相乗を用プレス	喧噪型用プレス&グラードボックス	145.144	210	1.8	1	201	1		引放力	1 1	28
E 4 28-61	1272>47	X273247	147	W115	1.0		2	製金を応力		初数力	1 1	214
H-180-94	DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF	オラグコンペアシュート	147		1.0		n	粉合せ応力		引催に力度	1 1	2.10
5 < 28-62	MAKOUX.						=				4 1	
0.486-92	20.8.多段至高	班北等總質賞12	146	<b>%16</b>	1.6			現合せ応力		引使力	4 1	28
		後級智器光複製器	140		3.0			場合せた方弦		引致力		力技
8.4股-41	バックアップフィルタ (鈴北草海装薬)	バラクアップフェルナ(松北等療装薬)*2	145	#1:E	1.0			現会世紀方		せん既応力度	1 1	食器
R-1 23-64	<b>运程者</b>	フードボックス(温放板)	161	814	1.0			趣念せ応力度		刑滅応力技		表接
	6950	在时間·2	150	8119	2.0	1		期金せた力		初弧応力度	1 1	214
		時分离及びオーバーサイズ接受器*2	152.153	W119	1.0	i .	Di	新会せたカ		引催に力性	1 1	2.44
8.412-65	アンダーサイズ指受罪	アンダーサイス形式管で	154	W.Id	1.8	1.	B	食げたカほ		せん既応力度	1 1	由報
8 -129-66	小分けまる	小分け製薬及びフードホックス(小分け製薬)	195.196		1.0	1	2	設立せ応力		せん形の力度	1	28
8. < 10-60 8. < 10-67	今世は製薬   ロフタ	11日本書のマノーとデステの(中間日本書)	199,196		1.0	1				和缺力	1 1	世格
m. 4 (8) 467	42.5	9.74				1		陶器せ応力度			4	
		THEA	157		1,0	1	RI	検索せ応力	1	科致力	4 1	24
		<b>你们会S</b>	197		2.0		R	現会せ応力		せん新応力度	4 1	此格
表不読-4年	根料フードボックス	無料フードホックスA及び技化フェーダ	158,155		0.6	I.		組合せた力		マルボ応力度	1 1	食料
		療料プードボックス世	198		2.6	1	25	現合せ応力		せん既応力度		会核
	1	意及フードボックスA,8室台	250		0.6	1		曲げた力体		せん形応力性		会話
		<b>建製門通常員</b>	-	W118	1.0	I		物金せだ力度		引致力	I 1	含铁
1.4 25-69	284	260	163		1.0		Dt.	1		せん群応力度	1	##
[4號-7]	盛心の過程	連心の連絡	166		1.1	1	Di .	-71	1	引張応力度	1	24
180.74		造らり連絡開放	166		1.0	1	20	発金せる方	1	引動力	1 1	24
1.00	1				1.0		Bi	MACON TO			1	
8.4 読-72	<b>石板港关榜</b>	海解液类槽12	167					場合せ応力		有数力	4	28
5.4 読-7年	<b>北部</b> 排	文影物	179		1,0		R	1	1	引集成为政	4	
五十段-75	連心分離性	造心分類性	172		1.1	ı	BK.	~*1		せん既応力度	1 1	金钱
		建心分類模型包	172	914	1.0	1		確合せ応力		有意力		去林
4.05-76	更多度	前連備*2	374	第1章	3.0			総会せ応力技		引致力	1	古林
A 10-27	沈浄深受けポット	式浄理受けポット	175	¥1:19	1.0	I		将会せ応力	1	せん概定力度		京林
4 終-31	<b>与際受情(1)</b>	ろ液果物(1)	177		1.0	1	Rt	-+1		せん都応力度	1	216
		不准使性(1)知由	177	81:0	1.0		*	製金を応力	1	引使力	1	24
1716.74	1				4.7	1					1	
[4]E-80	<b>福州政府</b> 權	吸形乾燥塔	388		5,6	1		聯合女応力技		せん形成力度	4	会核
		<b>建形定接模型</b> 自	188	#1:d	8.6	1	RI	現会せ応力技		せん製造力度	1	发格
1425-02	明け替えフードホックス®	明け曾太フードホッセス①②	157,285		0.4			現会せ応力		引致力		由格
		明け智人フードホックス〇(ホッパ)	183	W215	2,5	ı	25	1		せん断定力度	1 1	古林
		乾燥トレイー時受コンペア部製剤	182		1.6	1	1	将会せ応力	1	41907	1 1	24
1.4 18-41	バックアップフィルタ(明け望んフードボ・	バックアップフィルタ (明計製えフードホックス(①) ペ2	100			1	-		1	10.000	1 1	-281
- 10-40	(アスロ)	THE PERSON NAMED AND PARTY OF THE PERSON OF	104	M218	8.6	I	m	1		包数力		素機
				200	1	1	-	-		4.887	4	-
415-64	pH 調整排	pH 跡部 (1)(2)	186	#16	1.0	1	R	11		せん新花方度	1	含档
1.4 (8-8)	う濃度(疫液剤)	う連督(収退用)	100		2.0	1	- 24	1		利飲力	1	由格
1-12-11	NAM	<b>彩砕後フードボックス</b>	194	W115	1.0	1		用食せ忘力		別鉄力		2.16
		844	193		1.0	1	- 21	1	1	利飲力	1	素格
			197		1.0	1		現会せに力	1	せん新応力度	1	28
4 JB-DI	私之甘富	支動長型炉共産室和及びフードホックス(長型炉) 輸送装置	195		1.0	1	Di .	暗含せ応力度	1	別委応力度	1	216
(#-m	MESS			W148			2	増会せ応力度 増会せ応力度			1	

は既設工認から変更する箇所